

商業街路における魅力的な空間構成要素の配置構成の検証

正会員 〇清水弘樹*¹ 佐藤誠治*²
同 姫野由香*³ 東郷哲史*⁴

空間構成 配置構成 商業街路
単位空間

1 研究の背景と目的

郊外型大型商業施設と比較した際の中心市街地の問題点の1つに、店舗間の移動しにくさや店舗間をつなぐ空間の魅力不足があげられる。

そこで本研究では、商業地の中核ともいえる商店街の街路（以下商業街路）を研究対象とし、商業街路を訪れる人々の行動や印象に影響を与える建築物を除く物的な装置である空間構成要素に着目する。既往研究により明らかにした商業街路の物理的特性と心理的特性の関係性から、商業街路空間における理想的な空間構成要素の配置を提案し変更する。そして印象評価実験を行い、新たな配置の効果検証と商業街路空間の配置や整備に有用な知見を導出することを目的とする。

2 既往研究と配置案の導出

既往研究において、商店街の街路における商品や看板などの空間構成要素の配置構成を把握し、その配置構成が外来者の心理的側面に与える影響を明らかにした。これにより、通り全体の評価を向上させる各空間構成要素の配置案を導出した^{注1)} (図1)。

3 研究の方法

研究対象とした商業街路は、別府市の G 商店街である。配置変更を行うために、既往研究において、指摘回数、空間構成要素数が最も多い1街区を選定した(図1)。既往研究と同様、歩行者の視点から商業街路及び単位空間の心理的特性を把握するために、印象評価実験を行った。また、その街区に属する店舗には実験についてのアンケートを行った。

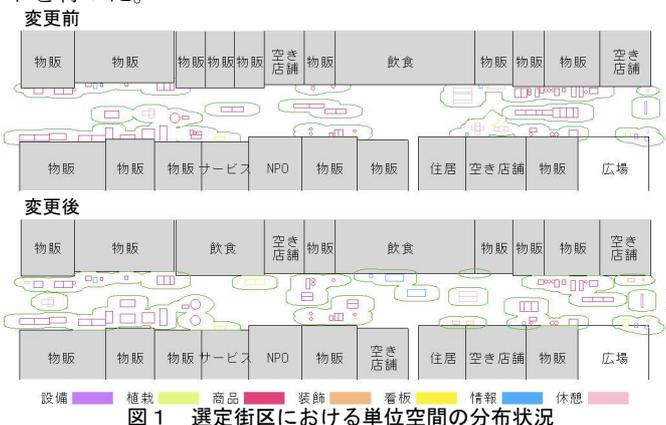


図1 選定街区における単位空間の分布状況

4 印象評価実験

4-1 印象評価実験について

被験者は各商業街路を歩行し、表1に示す評価項目に合致すると思われる街路上の要素、もしくは場所を指摘、同行した調査員が地図上に記入し(指摘による印象評価実験)、歩行後、形容詞20対の項目について評価する(SD法による印象評価実験)。

表1 印象評価実験の概要

実施日	2009年 2月6日~2月8日	
被験者数	33人 1,2日目:建築系学生20人、一般人4人(車いす利用者2人) 3日目:建築系学生5人、一般人4人	
実験方法	SD法による印象評価実験	指摘による印象評価実験
評価項目	総合評価 「魅力的な一つまらない」 その他の評価 「すっきりしたーゴチャゴチャした」 など19項目	・整然としている ・雑然としている ・活気がある ・さびしい ・うっとろしい ・すがすがしい ・歩きやすい ・歩きにくい ・興味を引く 計9項目

4-2 商業街路の印象評価 (SD法による印象評価実験)

被験者が調査対象の各商業街路でどのような印象を得ているのかを把握するため、SD法による心理評価実験を行った。得られた心理評価のプロフィールを図2に示す。

1・2日目、定休日の店舗が多い3日目、車イス利用者、平成19年度の実験結果を比較した。総合評価「魅力的な一つまらない」は、平成19年度の実験結果が最も高い値を示し、次いで、1・2日目、3日目、車イス利用者という結果が得られた。また、1、2日目と平成19年度の差は-0.086ポイントであり、1街区

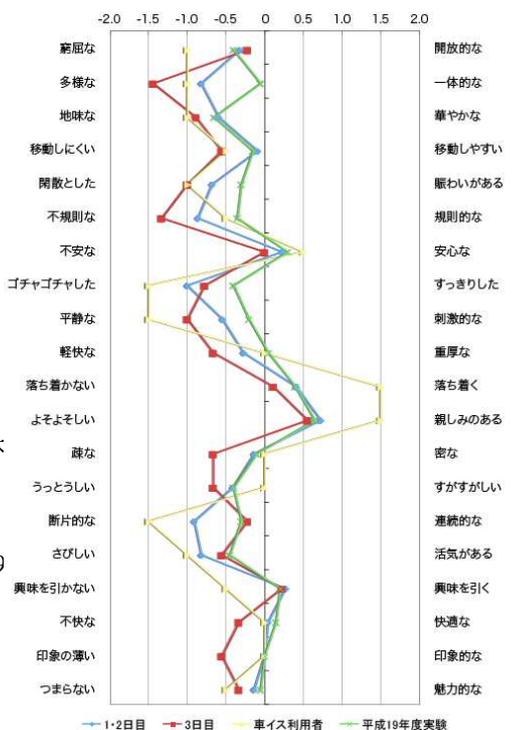


図2 心理評価プロフィール

の配置変更では、通り全体の印象評価の変化には結びつかないことが分かる。さらに、店舗が開店しており、平成19年度と、当時とほぼ同じ状況である平成20年度1・2日目を比較すると、「開放的な」「親しみのある」「興味を引く」という評価は向上しているが、「多様な」「断片的な」「ゴチャゴチャした」などの評価が低下している。1街区だけの変更は、全体の印象に雑然性を生み、マイナス評価に繋がるのが推察できる。

4-3 選定街区における単位空間の印象評価 (指摘による印象実験評価)

単位空間への指摘の傾向を明らかにするため、評価項目別単位空間指摘回数(割合)を算出し、図3に示す。最も指摘された項目は、「興味を引く」で全単位空間指摘回数177回中54回(30%)であった。次いで、「歩きにくい」37回(21%)、「雑然としている」28回(16%)、「うっとうしい」26回(15%)、「活気がある」16回(9%)となっている。商品や情報の要素を以前より街路中央に配置することにより、「興味を引く」「活気がある」の指摘が多いが、要素同士の距離感が近くなり、歩行空間が狭くなってしまったため、「歩きにくい」「うっとうしい」の指摘も多くなっていると考えられる。

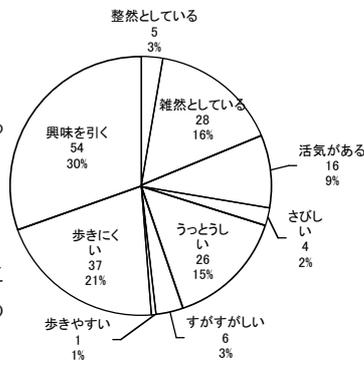


図3 評価項目別指摘回数

5 選定街区における商店主の意識調査

配置変更の街区に分布する店舗の店主が配置変更によるどのような印象、感想を持ったのかを把握するために、アンケート調査(表2)を行った。

表2 アンケート調査の概要

配置変更実験に関するアンケート調査	
実施日	2009年 2月24日 店舗へ直接配布 2009年 2月26日 店舗へ直接回収
被験者数	配置変更の街区にある7店舗(回収率100%)
アンケート項目	<ul style="list-style-type: none"> お客様の入店状況に変化はありましたか? 今回の実験をきっかけに、商品や他の街路上にある要素の配置を改めて考えてみよう(考えてほしい)と思われましたか? 今回の実験とこれからの商店街について、自由にご意見を記入ください。

ここでは、紙面の都合上、商品要素の配置変更の印象と店舗主の商店街に対する意識、今回の実験での意識変化についてみていく。表3より、入店状況や商品を見てもらう機会については、全店舗が「どちらともいえない」と回答しており、商品配置変更が売上げに影響していないと考えられる。配置変更方法についてはもう一度

検討する必要がある。要素の配置を改めて考えてみようかについては、「はい」5、「いいえ」1となっている。また、「安全で、楽しいショッピングができる通りにするための指導者がいれば」「商店街全体の作りとして、スッキリした通りと市場、フリーマーケットのようなどちらが良いかは分からない」などの自由記述が得られた。このことから、実験実施により、要素配置変更への意識は向上したが、その方法やプランについての情報不足により、具体的な取り組みに至りにくい状況にあることが分かる。

表3 アンケート調査結果

	増えた	どちらかというと増えた	どちらともいえない	どちらかというと減った	減った
お客様の入店状況に変化はありましたか?	0 (0%)	0 (0%)	7 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
お客様に商品を見てもらう機会は増えましたか?	0 (0%)	0 (0%)	7 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
今回の実験をきっかけに、商品や他の街路上にある要素の配置を改めて考えてみよう(考えてほしい)と思われましたか?	5 (71%)	1 (14%)	1 (14%)	0 (0%)	0 (0%)

自由記述
40年近くアーケードの中で商売をしていて、配置を変えたり、1つ努力すればすぐに売り上げに通じた時代もありました。いろんな経験を経てきて、こういう時代は初めてです。
商店街の通りに出してあるワゴン等、店の者には、売るためには陳列構成はいいと思ってる人がいるが、そういう陳列構成を指示して、安全で、楽しいショッピングができる通りにするための指導者がいればなと思っています。
商店街全体の作りとして、スッキリした通りと市場、フリーマーケットのようなどちらが良いかは分かりません。
商店街ですべての店がそろそろ必要がある(化粧品、靴屋、紳士服...)など。

6 総括

本研究では、既往研究の結果の検証を行った。その結果、商店街1街区の空間構成要素の配置変更では、商店街全体への印象評価の変化には結びつかなかったと考えられる。興味を引くという印象を与えたものの、配置変更を行った街区は、他の街区に比べ、要素の数が多く、さらにその要素を通り中央へ配置変更する場合があります、他の街区より印象が強くなり、外来者にひとつの商店街として一体的でないという印象を与えたと考えられる。また、外来者と要素の距離、要素と要素の距離が近くなるため、ゴチャゴチャしているという印象を与えたと考えられる。また、要素配置変更への店舗主の意識は向上したものの、情報不足により、具体的な取り組みに至りにくい状況であることが分かった。

今後の課題は、試験的に街路全体の要素の配置変更を検討することや、各空間構成要素の配置や外来者と要素または要素同士の距離を店主とともに見直し、情報の共有を図りながら、改めて再検討する必要がある。

補注)

- 注1) 各単位空間の理想的と考えられる配置(単位空間の形態) 既往研究における重回帰式と指摘項目別指摘回数より導出
- ・「設備が特徴的な単位空間群- 壁面接触連結型」
 - ・「植栽が主たる単位空間群- 中規模型」
 - ・「商品が特徴的な単位空間群- 壁面寄り連結型」
 - ・「装飾が主たる単位空間群- 壁面接触連結型」
 - ・「看板が主たる単位空間群- 壁面接触連結型」
 - ・「情報の単位空間群- 中規模型」
 - ・「休憩の単位空間群- 中規模型」

参考文献)

- 1) エドワード・ホール：「かくれた次元」みすず書房、1970
- 2) 佐藤敬、有馬隆文：「店舗の構えの特徴と商店街の魅力に関する研究」日本建築学会計画系論文集、No.582、pp86-93、2006.8

*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

*2 大分大学理事・副学長 工博

*3 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 助教・博士(工学)

*4 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

*1 Graduate Student, Master's Course, Graduate School of Eng., Oita Univ.

*2 Trustee and Vice President, Oita Univ., Dr. Eng

*3 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., Dr. Eng

*4 Graduate Student, Master's Course, Graduate School of Eng., Oita Univ.